



毎月1回  
25日発行

# はしもと★ランド

第119号  
7月25日

<http://hashimoto-land.com>

はしもとランド

検索

■発行・編集・印刷■橋本新聞販売株式会社 企画部 丸岡・高橋  
〒370-0063 高崎市飯玉町42 TEL.027-361-4950 FAX.027-361-5009 e-mail:takahashi@hashimoto-land.com



## 日光・中禅寺湖

日光へのアクセスルートは2通りあり、関越道を利用して沼田ICで降り、片品、金精峠を通過して行くルートと、北関東道を利用し、東北道へ出て宇都宮有料道路を利用するルート。日本で10番目に世界遺産となった「日光東照宮」(午前8時～午後5時、拝観料1,300円、小中学生450円、0288-54-0560)は、絢爛豪華な彫刻群の陽明門、三猿、眠り猫、鳴龍など見所がいっぱい。明治、大正天皇に御用邸として使われた日光田母沢御用邸記念公園(入園料大人500円、午前9時～5時、0288-53-6767)は、全面改修が行われ、平成12年から公開され、御用邸として使われた当時の状態を今に残している。日本三名瀑の一つ落差97mの華厳の滝、湖面の標高は1,269mと日本一高いところにある湖…中禅寺湖。足を延ばせば戦場ヶ原、竜頭の滝などがありすべてが標高の高いところにあるので下界とはかけ離れた涼しさだ。■問い/日光観光協会 Tel.0288-54-2496



### 爽やかな涼を求めて、 ご家族でドライブに出かけてみませんか!!



## 水上・照葉峡

関東地方での天気予報でいつも一番低い気温の水上。関東一の急流「利根川」を大型ボートに乗ってパドルを操り下っていくリバースポーツ、ラフティングやバンジージャンプが有名で多くのアウトドア派に人気がある。関越自動車道を利用して水上ICから、湯檜曾方面に向かい「大穴」信号を右へ。藤原湖に沿って北上し、ダム、青い湖面と深い緑の中を進むと宝台樹・安らぎの森がある。宝川温泉を左に見ながらさらに進むと、須田貝ダム、奈良俣ダムを過ぎると日帰り温泉も楽しめる「湯ノ小屋温泉」へ。さらに進むと、美しい景観から関東の奥入瀬とも言われる照葉峡がある。少し足を伸ばして、尾瀬岩倉スキーリゾート・ゆり園ではゲレンデに咲く300万輪のゆりが見事だ。



■問い/みなかみ観光協会 Tel.0278-62-0401

## 軽井沢・万座

高崎より軽井沢までは、国道18号線、碓氷バイパスを通る一般道のルートと、上信越道を利用して行く高速道ルートの2つがある。首都圏の避暑地として憧れを集める別荘地「軽井沢」。もとは浅間山の噴火により火山岩の荒地であったが今は高級別荘地。海拔1000m以上の高さにあるので、夏の涼しさは格別。ショッピングは、旧軽井沢の賑わう商店街や、軽井沢プリンスショッピングプラザでどうぞ。旧軽井沢から北上すると浅間山が左側にだんだん大きくなっていく。白糸の滝でマイナスイオンを満喫したら、鬼押しハイウェイへ。鬼押し園に立ち寄るもよし、万座ハイウェイでさらに北上し、標高1800mの万座温泉で雲海を見下ろしながら、日帰り露天風呂で気分をリフレッシュも! ■問い/軽井沢観光案内所 Tel.0267-42-2491



## 神流町・上野村

湯ノ沢トンネルの開通でぐーんと近くなった上野村。周囲は山が深く急峻で、谷あいの川沿いの道路を走っていると気分爽快! キャンプ場やバンガローがあり長期滞在も可能な「まほーばの森」と、夏でも寒い鍾乳洞不二洞のある「川和自然公園」を結ぶ巨大吊り橋「上野スカイブリッジ」は、まるで天空回廊。夏の暑さを忘れさせてくれる夢のリゾートエリアだ。国指定重要文化財の旧黒澤家住宅(江戸時代には代官の役職も兼ねていた)で山里のくらしを偲び、国民宿舎ヴィラせせらぎで川のせせらぎの音を聞きながら日帰り温泉もおすすめ。帰りは「道の駅上野」で地元の新鮮野菜や十石みそ、木工品などをお土産にどうぞ。■問い/(社)上野村産業情報センター Tel.0274-20-7070



## 赤城山

赤城神社大鳥居をくぐり、畜産試験場・群馬県馬事公苑辺りから草原が広がり空気が爽やかに変わってくる。さらに登ると松や広葉樹の木立から初夏にはレンゲツツジが群生する高原の新坂平へ。ここまでくると平地とはまるで違う涼やかな空気が漂っている。道路沿いの樹木が白樺などに替わり景色も一変、大沼に到着。周囲4km、標高1,340mに位置し、湖畔には土産物店が点在し、大沼の中にある赤城神社へ渡る赤い橋の欄干も望める。湖畔には白鳥の貸しボートが浮かび、小鳥のさえずりも聞こえ自然を満喫できる。県立ビジターセンターの先には寛満淵、小沼もある。小沼はひっそりと静かな環境で、湖畔は家族向けのハイキングコースとなっている。■問い/赤城山総合観光案内所 Tel.027-287-8061



## 県球界をリードした桐生



全国制覇を遂げた桐生第一



55年のセンバツ。豪打・坂崎一彦(巨人、東映)擁する浪華商との決勝戦。桐生は坂崎の敬遠策に出た。あと一步で何度も優勝を逃していた稲川監督が、非難覚悟で取った「必勝作戦」である。しかしエース今泉喜一郎(大洋)現・DENA)。

私の同級生が母校で監督をしていた。今はその息子がエースとして活躍している。我が母校の戦いにも必ず分かれるのが勝負である。非情とも言えるが、そのコントロールが人々を引きつけるのだ。4月、稲川監督は67年季県大会の試合中、突然倒れ、ユニホーム姿のまま脳出血で息を引き取った。享年61。野球の神様

も育てた。55年の準優勝2回を誇る。東映フライヤーズ(現・日本ハム)で活躍し、通算三塁打日本記録を築いた毒島章一なども育てた。

ある学校の練習風景を見学した。甲子園目指し、練習に熱がこもる。グラウンドに掛け声が響く。汗まみれになり投球練習する投手、ノックの球に飛びつく選手…。金属音と共に打球が飛ぶ。応援も練習に頑張っているのだらう。太鼓の音が聞こえてきた。

球都という。桐生は戦前から県の高球界を牽引し、全国にその名をとどろかせた。県史上初の全国制覇を遂げたのは、1999年の夏、桐生第一である。球都・桐生の礎を築いたのは、桐生高校を春夏合わせて24回も甲子園に導いた一人の名監督であった。

球都・桐生を築いた名監督

## 上州をゆく

69 ペンネーム  
国定忠治(高崎在住)